2018 年度 小委員会活動成果報告

（2019 年 1 月 31 日作成）

小委員会名	次世代排水システム適用小委員会	**主 査 名**：坂上　恭助 **就任年月**：2017 年　4 月
所属本委員会 （所属運営委員会）	環境工学委員会 （建築設備運営委員会）	**委員長名**：岩田　利枝 **主 査 名**：秋元　孝之
設　置　期　間	2015 年　4 月　～　2019 年　3 月	
設　置　目　的 各年度活動計画 （箇条書き）	従来の非満流重力排水システムの体系に組み込まれていない、次世代排水システムである小径排水システム（小型圧送排水・真空排水・サイホン排水）や非水封式トラップ（自封トラップ等）に関して、AIJES「機械・サイホン排水システム設計ガイドライン」を活用し、実物件への適用・普及を促していく方策について検討する。また、震災の経験を踏まえた、自立給排水設備の構築を検討する。 ・初年度：設計ガイドライン刊行のサポート、講習会の共催、適用事例の収集 自立給排水設備の情報・事例収集 ・２年度：適用事例の整理､意義･価値の周知､自立給排水設備の評価方法の検討 ・３年度：普及の方策を検討・実行、自立給排水設備の評価と課題 ・４年度：適用事例をまとめる、自立給排水設備の情報・評価をまとめる	
委員構成 （委員名（所属））	**委員公募の有無**：なし 主査：坂上恭助（明治大学） 幹事：古賀誉章（宇都宮大学）、佐々木敏（ブリヂストン） 委員：小寺定典（ＵＲ都市機構）､髙津靖夫（芝工業）､摺木剛（丸一）､ 谷信幸（アルモ設計）､前川一郎（戸田建設）､真山淳哉（タキロン）､ 飯塚宏（日建設計）､臼井政夫（スマートポンプジャパン）､ 山本慈朗（ジエス）､加藤健一郎（斎久工業）､久保勝之（長谷工）	
設置 WG （WG 名：目的）		
2018 年度予算	100,000　円	**ホームページ公開の有無**：　なし **委員会 HP アドレス**：

項　　目	自己評価
委員会開催数	８　回（年度内計画を含む）
刊行物 （シンポジウム資料等は除く）	
講習会	
催し物 （シンポジウム･セミナー等） *能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 （当初の活動計画と得られた成果との関係）	１．次世代排水システムの適用事例のまとめ　→　達成度　100% ２．自立給排水設備の情報・評価のまとめ　→　達成度　20%
委員会活動の問題点・課題	１．自立給排水設備に関して、新規の情報が乏しいこと ２．普及にむけての情報の出し方（設計資料集刊行の場合の内容）

2018 年度 小委員会活動 自己評価

(最終年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	A
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	本小委員会の主目的である「次世代排水システムの適用・普及」に対して、本小委員会の最終年度の活動の自己評価は以下の通りである。 第一に「次世代排水システムの適用事例のまとめ」に関しては、適用事例の紹介を含む「設計資料集」の原稿執筆と刊行準備という形で作業を進め、年度末までに第一次原稿を完成させることができた。 第二に刊行準備作業に伴って、これまで懸案となってきた意匠設計者の意見や要望などを聞きとり調査することができ、次世代排水システムの新しい情報を届ける相手に合わせた、わかりやすい情報の整理をすることができた。 第三に副次的な目標である自立給排水設備の情報・評価のまとめについては、震災から時間が経って新しい情報も少なくなり、むしろ次世代排水システムの設計資料集をまとめる上で、システム普及に対する課題として認識され、議論や評価の対象となった。 以上、総合して、最終年度は 90％程度の達成率と自己評価した。 最終年度として、4 年間全体の活動を総括すると、第一に、初年度に前小委員会から引き継いだ AIJES「機械・サイホン排水システム設計ガイドライン」の刊行を成し遂げたのは大きな成果である。第二に、設計ガイドライン刊行に続いて次世代排水システムの「適用事例」の収集を再度行い、それらの位置づけに関する議論によって理解が深まり、「拡張排水システム」という新たな名称として体系化することができたことも、高く評価できる。これらの考えにもとづいて、当初想定の「適用事例集」を超えた「設計資料集」の刊行を、完成までもう少しのところまで進めることができた。 したがって、自立給排水設備のテーマは些か低調であった感は否めないものの、主要な目的である「次世代排水システムの適用・普及」に関して、予定以上の活動成果を残すことができたので、４年間を通しての総合的な目標達成度は 95％程度とし、総合評価は A と自己評価した。

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画･目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価･外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。